



本庄市長

吉田信解

年頭のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には希望に満ちた平成十九年の新春を、ご健勝にてお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

昨年は合併によって新本庄市が誕生し、新たな時代の幕開けとなりました。新市建設計画がスタートし、秋には懸案であった本庄早稲田駅周辺のまちづくりも始まりました。合併に伴い新たな自治会連合会の発足をはじめ、各種団体の統合も進んでおります。また、レクリエーション大会、新市の市章の決定、合併記念式典などの諸事業も無事終了しました。私はこの一年、市民本位の行政を進めるため、市長への手紙や市民との対話集会を積極的に実施してまいりました。今後も市民の皆様のご意見を行政サービスに反映させるよう努めてまいります。

さて、今や地方分権の流れは加速しております。今までの国の指導による地方行政から、公共サービスのあり方を自分たちで決める本格的な地方自治の時代が来ております。

その一方、昨年は財政破綻する市も現れ、税などの住民負担は全国最高に、学校教育も含めた公共サービスは全国最低にせざるを得ない再建計画が新聞やテレビで報道されております。これを「対岸の火事」として傍観しているわけにはまいりません。自治体も「自己決定、自己責任」が厳しく問われる時代になりました。

限られた予算で活力と希望あふれるまちを創るためには「今、そして未来を考えたとき、どうしてもやらねばならない事業は何か、そして何をがまんしなければならぬか」という「選択と集中」の行政経営が求められます。昨年は企業誘致に力を入れ、将来の経済活性化と税収アップに努める一方、老朽化した市民プールの閉鎖なども行いました。本年も引き続き、財政好転に向け努力を重ね、公共サービスのあり方を見直し、またそのことを市民の皆様にしつかり説明できる行政を確立していきます。

このような時代、まちづくりには「市民と行政の協働」が必要です。すでに本庄市でも様々な分野で、市民と行政が知恵と力を出し合う協働のまちづくりが始まっています。実践されている皆様に、今後もスポットがあたるよう努めていきたいと考えております。

混迷する現代、今こそ求められるのは「人の絆」であります。一人ひとりが、家族・親族・友人・地域社会など自分を支えてくれている存在に感謝できること、共に励ましあい、いたわりあえること、それが本庄の未来ひいては日本の未来を明るくする第一歩であると確信します。

市民の皆様、温かく、活力と希望あふれる本庄を創るため、私そして本庄市行政はこの一年も全力で頑張りますので、どうぞより一層のお力をいただきたくお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。



・児玉町高柳地区より北東方面市街地を望む